

健診検査センターニュース

No.531 号

運営委員会より

5月15日（金）平成27年度第2回の運営委員会を開催いたしました。

1. 特定健診4月の実施件数は、下記のとおりでした。

	4月受診数（前年比）	累 計（前年比）	函館市国保受診率 4月現在 / 目 標 0.0% / 30.0% 達成率：0.0%
函館市国保	0人（△187人 0.0%）	0人（△187人 0.0%）	
後期高齢者	0人（△31人 0.0%）	0人（△31人 0.0%）	
その他	65人（16人 132.7%）	65人（16人 132.7%）	
合 計	65人（△202人 24.3%）	65人（△202人 24.3%）	

実施機関：33施設／登録機関105

○ 4月より、協会けんぽ・組合等の個別健診が始まりました。なお、例年4月に実施されていた東部保健事務所管内の集団健診は、5月に実施されることとなっております。

○ 5月下旬より、特定健診の案内と函館市国保・後期高齢者の受診券が配布となります。

2. 27年3月の健診検査事業収入は、下記のとおりでした。

	4月（前年同月比）	27年度累計（前年比）
一般検査収入	109.6 %	109.6 %
健診収入	119.0 %	119.0 %
合 計	111.4 %	111.4 %

3. 平成26年度の決算について詳細な説明がされ、協議の上承認されました。

4. 日本臨床衛生検査技師会並びに日本臨床検査標準臨床協議会より、精度保証施設の認証の更新を受けました。

5. 職員の採用2名の報告がされました。

《 ちょっと一言 》

医師会健診検査センター運営委員広報担当の小葉松です。大阪都構想は僅差で否決されましたが、世の中を急激に変えるのは、なかなか難しいのでしょうか。

医療の世界も、今までの常識ではこれから先の50年（団塊ジュニアの世代がいなくなり日本の人口が定常人口に落ち着くまでの過渡期）は乗り切れないと思います。先月、札幌で村上智彦先生（岩見沢 ささえるクリニック）の講演を聴きました。古くは旧瀬棚町で先進的な地域医療に取り組まれていた当時から注目していましたが、色々な場所で色々な話題を提供された方なので、賛否が分れている方かもしれませんが、個人的には諸手を挙げて村上先生を支持します。「少子高齢化、人口減少の最先端の北海道の町創り」と題して1時間長の講演は本当に熱意にあふれ、未来志向で、少子高齢化人口減少と聞くと暗いイメージしか持てない人々に、喝を入れる内容でした。今までは当たり前だった「戦う医療」から「ささえる医療」へという概念も頷けましたし、地域の再生にはその地域の住民が自ら起業して、納税し、雇用を作る事こそが必要、「国が何もしてくれない」「行政が」とかいう人がいたら、そんな発想では地域の再生など不可能、そしてコミュニティが生き残るために最終的に必要なのは住民の「覚悟」「愛着」「物語」、不便になっても愛着と覚悟があれば地域に住むことは可能だし、次の世代の事を考えたら我慢も必要、「全人的な医療をやる医師」はとても立派だが、地域包括ケアや多職種連携においては時に邪魔になり、一見システムが上手く行っている、その人がいなくなったら機能しないのであれば失敗、医師は偉いままでもいいから出来るだけ口や手を出さないで、見守るという姿勢が必要、「傘になる」「地域力を高めるコミュニティ・ドクター」というお話はこれから縮小していく地域をささえる上で、とても示唆に富み、期待を超える素晴らしい講演でした。で、ぜひ村上先生の講演会を函館でも企画したいのですが、誰か一緒にやりませんかあ？

（文責 小葉松洋子）

公益社団法人函館市医師会 函館市医師会健診検査センター
TEL 0138-57-6571 ・ FAX 0138-57-6580
E-mail : info@hma-labo.jp